

しよく  
燭

だい  
台

たいしょうじだいご  
～大正時代頃

---

ろうそくを<sup>た</sup>立てて<sup>ゆか</sup>床に<sup>お</sup>置いて<sup>しつない</sup>室内を<sup>て</sup>照らす<sup>どうぐ</sup>道具。

ひ<sup>け</sup>火を<sup>とき</sup>消す時は、「<sup>しんき</sup>芯切り」というハサミ（トング）の

ような<sup>どうぐ</sup>道具でろうそくの<sup>しん</sup>芯をはさみます。